

【短報】“フェリーとしま”の船内で採集されたカブトムシ

カブトムシ *Trypoxylus dichotomus septentrionalis* Kôno, 1931 (コガネムシ科) は、本州および四国、九州、対馬、種子島、屋久島などに分布する(岡島, 2012)。日本において、本種はペット昆虫の筆頭格であるだけでなく、小規模な雑木林と堆肥等の幼虫期の餌資源さえあれば簡単に繁殖できるため、分布域外における侵入・定着リスクが非常に高いと言える。実際に1970年代には北海道へ人為的に移入され、現在では広く定着している。また沖縄本島にも本土産のカブトムシが持ち込まれ、一時期は沖縄本島南部において生息が確認され、沖縄亜種との交雑による遺伝子浸透が危惧される状態である(喜田, 2003; 永井, 2006; 細谷・荒谷, 2010)。筆者の一人、山田は鹿児島一名瀬間を運航する“フェリーとしま”の船上でカブトムシの♀成虫を採集した。本種の未発生地域への侵入・定着リスクを評価する上で重要な記録と考え、ここに報告する。

1♀, “フェリーとしま”船上(鹿児島—中之島間), 28.VI.2016, 山田隆三採集・保管(図1)。

“フェリーとしま”は、鹿児島本港南埠頭一名瀬港佐大熊岸壁(新港岸壁を利用する場合もある)間を結び、鹿児島県十島村(トカラ列島)の有人7島各島に停泊する。通常、週に2往復するが、夏季には臨時便が出て週3往復となる。鹿児島本港からは23時に、名瀬港からは3時にそれぞれ出港するが、夜間両港に停泊する際には船上と船内の灯火を点灯するため、少なからず船上に昆虫類が集来する(細谷ら, 2011; 細谷, 未発表データ)。本個体は2016年6月27日に鹿児島本港を出港した名瀬便の船内で、28日早朝の中之島への寄港直前に生きたまま採集されたもので、鹿児島本港で灯火に飛来し、船内に入り込んだ可能性が高い。本種はトカラ列島には生息しておらず、本個体がフェリーから本列島の島に侵入した場合、国内外来個体となる(細谷,



図1. 船内で採集されたカブトムシ。

2011; 岡島, 2012)。特に採集個体が♀であることから、既交尾個体であった場合、複数卵の産卵から定着にいたることも懸念された。

トカラ列島におけるヒッチハイクによる昆虫類の分布拡大については、これまでにクロマルカブト(クロマルコガネ) *Alissonotum pauper* (Burmeister, 1847) や、ヤエヤマニセツツマグソコガネ *Atanius picinus* Harold, 1867 などが報告されている(細谷ら, 2009, 2011; 細谷・小林, 2016)。また、アオドウガネ *Anomala albopilosa* (Hope, 1839) は島間移動により亜種間交雑が起り、亜種区分の崩壊が進みつつある(酒井・藤岡, 2007; 細谷ら, 2011)。今後、甲虫類のみならず、鱗翅類や半翅類など、多様な昆虫群を対象にした調査が必要である。

引用文献

- 細谷忠嗣, 2011. トカラ列島の昆虫地理. 昆虫と自然, 46(8): 5-8.
- 細谷忠嗣・荒谷邦雄, 2010. ペット昆虫としてのクワガタムシ・カブトムシ類における外来種問題. In: 村中孝司・石濱史子(種生物学会)編, 種生物学研究 第33号, 外来生物の生態学(進化する脅威とその対策), pp. 135-159, pl. 3. 文一総合出版, 東京.
- 細谷忠嗣・土居朋嵩・横川忠司・棚橋薫彦, 2011. トカラ列島調査2009年調査で採集されたコガネムシ上科甲虫. 鯉角通信, (22): 25-36.
- 細谷忠嗣・清 拓哉・川下悠希, 2009. トカラ列島調査で採集されたコガネムシ上科甲虫. 鯉角通信, (19): 3-14.
- 細谷忠嗣・小林修司, 2016. トカラ列島悪石島・宝島で採集されたコガネムシ上科甲虫. さやばね ニューシリーズ, (22): 19-22.
- 喜田和孝, 2003. 知床移入種事情. In: 斜里町立知床博物館編, しれとこライブラリー5, 知床の昆虫. pp. 212-225. 北海道新聞社, 札幌.
- 永井信二, 2006. 日本のカブトムシ大図鑑. BE・KUWA, (22): 8-29.
- 岡島秀治, 2012. カブトムシ亜科. In: 岡島秀治・荒谷邦雄監修, 日本産コガネムシ上科標準図鑑. pp. 361-363. 学研教育出版, 東京.
- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説第2巻, 食葉群 I. 173pp., コガネムシ研究会監修. 昆虫文献 六本脚, 東京.

(吉武 啓 305-8604 つくば市観音台 3-1-3
 国立研究開発法人農研機構・
 農業環境変動研究センター)
 (細谷忠嗣 819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学
 持続可能な社会のための決断科学センター)
 (山田隆三 891-5201 十島村中之島 153-82)